

福寿園だより

Vol. 87

令和3年10月10日発行



- ◆特別養護老人ホーム福寿園…………… 定員100名
(うちショートステイ15名)
- ◆ケアハウスさくら荘…………… 定員30名
- ◆福寿園デイサービスセンター…………… 定員42名
- ◆福寿園ヘルプーステーション…………… (うち認知型12名)
- ◆福寿園居宅介護支援センター
- ◆原町東地域包括支援センター

編集
発行

社会福祉法人 南相馬福祉会
福寿園広報委員会

〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町2-70
TEL (0244) 25-2811
FAX (0244) 25-2812
URL <http://minamisomafukushikai.or.jp>
MAIL fukujuen@chive.ocn.ne.jp



福祉体験 学習



原町第二中学校の皆さんが、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・ヘルプーステーション・ケアハウスさくら荘で福祉体験学習を行いました。福祉に対する理解を深めた2日間となりました。

ハッピーデー

(福寿園デイサービス)

新機器導入

この度、「健康王国」という新たな機器を導入しました。

プログラムには、体操・口腔体操、都道府県問題等の脳トレ、昭和問題(道具遊び等)、そしてカラオケ、とても沢山のコンテンツが詰まっています。

「これは、お手玉遊びだよ」「凧あげだったな」等と、ご利用者の皆さんとの会話が弾みます。

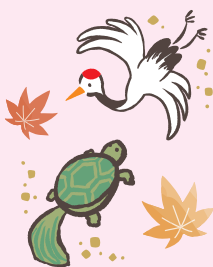
導入して3ヶ月。まだまだ十分にコンテンツを活用できていませんが、ご利用者の皆さんと一緒に楽しみながら使っていきたいと思っています。



9月行事 敬老会



9月21日に敬老会を行いました。今年、傘寿から百寿まで、13人の皆さんが賀寿を迎えられ、当日6人のご利用者へ賀寿状を贈呈しました。一人ひとりご挨拶をいただき、恒例の職員による足芸を鑑賞。笑い声に溢れた、おめでたい秋の一日となりました。





夏祭り

8月5日、夏祭りを開催しました。
当日は「輪投げ」「金魚すくい」「綿あめ」「ジュース」「かき氷」等の模擬店に加え、各エリアでスイカ割りを行いました。ご利用者の皆さんが美味しそうに召し上がっている姿が印象的でした。

綿あめや折り紙で作った金魚すくいは、夏祭りの雰囲気を感じて頂きたいという思いから、レクリエーション委員会が中心となり考えました。ご利用者から、普段の生活とはまた違う、とびきりの笑顔が見られ、とても嬉しかったです。

来年もまた皆さんに喜んで頂ける夏祭りになるよう努めてまいります。



おやつ作り

ひだまりエリアとせせらぎエリアでおやつ作りを行いました。
ひだまりエリアでは「五平餅」、せせらぎエリアは「あんみつ」です。五平餅は、ご飯を潰してホットプレートで焼き、特製のたれを塗って、あんみつは、フルーツみつ豆にあんこやクリームをトッピングして完成。ご利用者の皆さんでも簡単に作ることができ、美味しいと好評でした。

コロナ禍で外出ができない為、ご利用者の気分転換も兼ねて、おやつ作りを定期的に行っています。今後もご利用者に楽しんで頂けるよう工夫を凝らしていきたいと思ひます。



ケアハウス きくら荘

納涼祭



ご入居者の皆さんに楽しいひと時を過ごしていただこうと、8月10日に納涼祭を開催しました。

今回の目玉は、自分で作る「ハンバーガー」です。好みの具材をバターロールに挟み、オリジナルバーガーの出来上がり！

焼きとうもろこしやウインナー・冷やしトマト・スイカも添え、「とても美味しかった」と好評でした。



いつもありがとうございます
ごぞいませ

寄付 (6月16日～9月15日)

◎渡邊 健一様 (原町区旭町)
◎佐藤 一男様 (原町区国見町)

寄付金

編集後記

秋風が気持ち良く感じて過ごしやすい季節になりました。

秋は本来活動的になる時季ですが、コロナ禍で自宅で過ごす時間が増えており、「食」への関心が高まっているとか。少し贅沢に、お家でゆっくり秋の味覚を楽しむのも良いですね。

また、空気が乾き、晴天が多い秋は掃除にぴったりの季節です。寒くなる前に早目の大掃除を済ませてしまえば、ゆっくりと年末を迎えられ、運動不足解消効果も！

さて、皆さんはどんな「秋」を過ごしますか？

計画は、適宜シミュレーションによる見直しを行い、よりの確に事業を継続するための計画へと変更させていただきます。

BCP(事業継続計画)について



かけはし

福寿園居宅介護支援センター

BCP(事業継続計画)とは、自然災害や感染症が発生した場合であっても、介護サービスを提供するための計画です。計画策定に当たり、ご利用者・ご家族の皆さまに「急変時及び災害時台帳」の記載をお願いし、ご自宅に備えていただくことといたしました。もしも避難が必要となった場合、避難先での情報提供がスムーズに行えるようにするためです。事業所にも備え置き、万一、担当者が不在であっても、ご利用者の情報を正確に把握し、必要な機関へ繋ぐこと等を目的としています。